




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	谷口 純一
論文担当者	主査 廣野 誠子 
	副査 大村谷 昌樹 
	副査 金澤 伸也 
学位論文名	Clinical Utility of Bland Embolization Using Microspheres for Painful Malignant Musculoskeletal Tumors (有痛性骨軟部腫瘍に対する球状塞栓物質を用いた塞栓術の臨床 的有用性)
論文審査の結果の要旨	
<p>有痛性悪性骨軟部腫瘍は原発性腫瘍、転移性腫瘍に限らず疼痛を原因として患者の QOL を低下させる。有痛性悪性骨軟部腫瘍に対して球状塞栓物質を用いた動脈塞栓術は報告が少なく十分に評価されているとは言い難い。本研究では有痛性悪性骨軟部腫瘍に対して球状塞栓物質を用いた動脈塞栓術の有効性・安全性を検証した。2016年4月～2021年4月までに当院で切除不能骨軟部腫瘍に対して塞栓術を行った20人、22腫瘍を今回の試験の対象とした。評価項目は疼痛、合併症、初期治療効果、生存率の4項目である。疼痛は治療前、治療1日後・1～2週間後、3～4週間後にVASにて評価した。合併症は治療1カ月以内に評価した。初期治療効果の評価は15人に対してmRECISTを使用して行った。生存率の評価はKaplan-Meier法による生存曲線を使用して行った。有効な疼痛緩和が90% (18/20) でみられ、治療1-2週間後、3-4週間後で治療前と比較して有意にVAS低下がみられた。グレード3の合併症が皮膚潰瘍2例、疼痛+皮膚潰瘍1例、下肢筋力低下+知覚不全1例みられた。初期治療効果は奏効率が26.7% (4/15)、病勢制御率が86.7% (13/15) であった。1年生存率は43.8%、3年生存率は14.6%であった(生存期間中央値9.2カ月:0.5ヶ月～41ヶ月)。有効な疼痛緩和が90%の患者で治療1-2週間後にみられ緩和照射が4-6週間疼痛改善にかかることを考慮すると早期疼痛改善に役立つと考える。グレード3の皮膚潰瘍(3例)を引き起こした原因は、球状塞栓物質(100-300μm)のサイズが小さいため遠位塞栓により皮膚虚血や潰瘍形成を誘導したと考える。グレード3の下肢筋力低下+知覚不全を起こした症例は肋間動脈脊髄枝(非標的血管)塞栓による脊髄梗塞が原因として推定される。生存期間は過去論文と比較して正確な比較は難しいと考える。本研究の内容は、有痛性悪性骨軟部腫瘍に対して球状塞栓物質を用いた塞栓術が、安全に疼痛緩和や腫瘍制御に役立ち、臨床的に有意義であり、学位授与に値するものと判断した。</p>	